

令和 6 年度 「対話の場」(6 月) について

1 参加人数(計 180 名)

①	海西中学校区	中新田コミュニティセンター	6 月 15 日(土)	10:00~11:30	32 名
②	海老名中学校区	国分コミュニティセンター	6 月 15 日(土)	14:00~15:30	27 名
③	大谷中学校区	大谷コミュニティセンター	6 月 16 日(日)	10:00~11:30	32 名
④	有馬中学校区	社家コミュニティセンター	6 月 16 日(日)	14:00~15:30	28 名
⑤	今泉中学校区	上今泉コミュニティセンター	6 月 23 日(日)	10:00~11:30	39 名
⑥	柏ヶ谷中学校区	柏ヶ谷コミュニティセンター	6 月 23 日(日)	14:00~15:30	22 名

2 参加者意見の整理

【前例がないことへの不安感や、学校の負担に対する懸念】

- ・フルインクルーシブ教育という新しい言葉について、これからどんなことが始まるのかという不安感。
- ・学校の教員が不足している中で、フルインクルーシブ教育を進めることへの懸念。

【変化への期待感】

- ・学校や制度が変わっていく機会である、という期待や関心。

【どんな学校にしていきたいか】

- ・全員が互いを認め合い、尊重し合える学校。
- ・一斉授業を中心とした学びから、一人ひとりに合わせた柔軟な教育方法のアイデア。
- ・子どもたちが安心して過ごせる学校。
- ・地域と連携して子どもたちを育てる。

3 課題

○要望について

- ・具体的な施策や方法などを提示することへの要望。
- ゴールや正解がある取組ではないため、今後も継続的に対話を重ね、ともに作り上げていく。具体的な施策等については、様々な意見を参考に検討し、時機を見て公表していく。

○不安感について(ひとり一人への支援と、共に学ぶこと)

- ・一人ひとりへの支援と、共に学ぶことを相反する方向のように捉えていることで起こる、不安感。
- 子どもたち一人ひとりの学びを大切にし、ともに学ぶ環境を実現していくため、校内支援体制および教室環境について、調査研究を進めていく。

○フルインクルーシブ教育推進をさらに進めていくために

- ・「対話の場」を通し、参加者がフルインクルーシブ教育について主体的に学ぶ場となっていた。
- 今後も対話の場を継続的に計画、実施していく。

令和 6 年度 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議

【調査研究部会】

1 設置目的

海老名市のすべてのこどもが小学校・中学校でともに学べる環境の実現に向けて、推進会議で協議された研究、企画、実践内容や、想定される課題について調査研究を行う。

2 調査研究内容

- ・ ロードマップ、テーマ別計画の作成
- ・ フルインクルーシブな学校づくりに向けた在り方の検討
(就学相談、校内支援体制等)

3 スケジュール

- ・ 第 1 回 令和 6 年 6 月 27 日 (木)
- ・ 第 2 回 令和 6 年 7 月 30 日 (火)
- ・ 第 3 回 令和 6 年 9 月下旬頃
- ・ 第 4 回 令和 7 年 12 月頃
- ・ 第 5 回 令和 7 年 2 月頃

4 構成員

1	【有識者】東京理科大学 教職教育センター 講師 中村信雄 (部会長)
2	【有識者】明治学院大学 心理学部教育発達学科 教授 海津亜希子
3	国立特別支援教育総合研究所 研究員
4	海老名市教育委員会 就学支援課長 (副部会長)
5	海老名市教育委員会 教育支援課長
6	海老名市教育委員会 教育支援センター所長
7	神奈川県教育委員会 教育局支援部 子ども教育支援課 指導主事
8	神奈川県教育委員会 教育局支援部 特別支援教育課 指導主事
9	神奈川県教育委員会 教育局 インクルーシブ教育推進課 指導主事
10	神奈川県立総合教育センター 学校教育支援課 指導主事

※ 原則、構成員の欠席があった際は、当該構成員は当該会議の議事等について、部会長に一任することとする。なお、代理出席について、部会長の判断により可能とする。

※ この他必要に応じて、関係者を招き意見を聞くことができることとするともに、関係職員等をオブザーバーとして参加させることができる。

5 開催状況

【第1回：協議内容】

- 市が目指す姿「海老名市のすべてのこどもが、小学校、中学校でともに学ぶことができる環境の実現」をもとに考えられる課題を提示し、意見聴取
- ・フルインクルーシブ教育を推進していくにあたり、ソフト、ハード両面を変えていく必要性について多く意見が上がった。
- ・ソフト面では、ただ増員すればよいではなく、しっかりと意味や役割を理解した上で取り組みを進めること、教職員の意識改革の重要性が話し合われた。また、教育相談コーディネーター専任化の必要性についても話題が上がった。
- ・ハード面では、35人学級を前提として考えられることについて話し合われた。

⇒次回は、35人学級を前提とした「望ましい教室環境」について協議することが決定

【第2回：協議内容】

- 対話の場（6月）の報告および今後の対話の場の予定について意見聴取。
- ・懸念、不安、期待、フルインクルーシブな学校づくりへのアイデア等が出されたことを受けて、対話の場のよさや効果を共有するとともに、今後の施策に活かしていくことが確認された。
- ・今後の対話の場を行う上で、かかわる人たちの意識を高める必要性について意見が出された。

⇒対話の場については、随時報告を行うことで了承。

○現状の35人学級を前提とした教室環境の改善点について意見聴取

- ・インクルーシブな教室環境を考える上で、画一的、一律ではないこと、こども自身が自分に合った学びを選択できるような、フレキシブルに変えられる柔軟な教室レイアウトの必要性が話し合われた。
- ・現状の35人学級を少人数にする工夫について話し合われた。
- ・ハード面だけでなく、こども自身が学級への帰属意識をもてるようにすることにも議論が及んだ。

⇒こども自身が自分に合った学びを選択できる教室環境について議論を深める必要があるため、引き続き次回も望ましい教室環境を協議することで了承。また、こども自身が自分に合った学びを選択できるようにするため、支援体制の拡充についても協議していくことで了承。

令和6年度 海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会の進捗について

1 設置目的

海老名市のすべてのこどもが小学校・中学校でともに学べる環境の実現に向けて、本事業の目指す姿を共有し、課題を整理しながら実現に向けての研究を行う。

2 調査研究内容

- ・フルインクルーシブ教育推進に係る課題を整理し、解決方法を研究する
- ・「フルインクルーシブな学級づくり」、「教育制度」の視点を持ち、支援体制が効果的に活用できる方法を研究する。

3 スケジュール

- ・第1回 令和6年 5月 29日（水）
- ・第2回 令和6年 7月 23日（火）
- ・第3回 令和6年 10月頃
- ・第4回 令和6年 11月頃
- ・第5回 令和7年 1月頃
- ・第6回 令和7年 3月頃

4 構成員

1	スーパーバイザー【有識者1名】
2	小学校保護者1名
3	中学校保護者1名
4	障がい者団体より1名
5	えびな支援学校より1名
6	神奈川県県教育委員会 教育局 インクルーシブ教育推進課 指導主事
7	小学校校長1名
8	中学校校長1名
9	小学校教育相談コーディネーター1名
10	中学校教育相談コーディネーター1名
11	海老名市教育委員会 教育長
12	海老名市教育委員会 教育部長
13	海老名市教育委員会 教育部次長
14	海老名市教育委員会 教育支援課長
15	海老名市教育委員会 就学支援課長

5 開催状況

【第1回：協議内容】

- 市が目指す姿「海老名市のすべてのこどもが、小学校、中学校でともに学ぶことができる環境の実現」をもとに考えられる課題を提示し、意見聴取。
- ・こどもたちが一緒に過ごすことのよさについて、保護者を中心に多くの意見が上がった。
- ・教職員への周知、アプローチについて丁寧に行っていくことと同時に、インクルーシブ教育のよさを伝えていく必要性について意見交換がなされた。
- ・インクルーシブな環境面について、学校の実践例が紹介され、望ましい環境について意見交換がなされた。

⇒次回は対話の場の報告と、35人学級を前提とした「望ましい教室環境」について協議することです承。

【第2回：協議内容】

- 対話の場（6月）の報告および今後の対話の場の予定について意見聴取
- ・今後の対話の場について、療育機関など民間との対話があるとよい。
- ・保護者から、こどもたちが通う学校の教職員が、フルインクルーシブ教育について理解することの必要性が出され、学校と教育行政が一緒になって進めていくことが確認された。

⇒対話の場については、随時報告していくことです承。

- いくつかの環境事例を紹介後、現状の35人学級を前提とした、望ましい教室環境について意見聴取
- ・環境事例をもとに、こどもが安心して過ごすことができたり、協働的な学びができたりする環境として、イメージの共有化が図られた。
- ・こどもたちが安心して過ごすことができるために必要な支援環境が複数出された。
- ・新しく物を入れるだけではなく、日常的にできる支援について意見交換がなされた。

⇒次回は、望ましい教室環境と支援体制について協議することです承。

※2回の会議とも、スーパーバイザーから講義あり

対話の場「フルインクルーシブ教育～みんなで考えよう 海老名の教育～」

【9月以降の取組について】

各種団体との「対話の場」

- ・ 9月から10月に主に以下の団体と実施予定
(※ 海老名市特別支援学級親の会：7月実施済)
 - 海老名市自閉症児・者親の会 ○海老名市手をつなぐ育成会教育部
 - 海老名市肢体不自由児者と父母の会 ○海老名市不登校支援団体 など
- ・ フルインクルーシブ教育に対しての率直な感想、ご意見を伺いながら、どんな学校がよいかを一緒に考えていく。

教職員との「対話の場」

- ・10月から11月に間で各校と日程調整中。複数校合同で開催する場合もある。
- ・海老名市立小中学校全19校を教育長及び指導主事で訪問
- ・5～6名でテーマにそってディスカッションする。フルインクルーシブな視点で学校、学級経営、授業づくりや子どもたちへの伝え方を考える。

市民との「対話の場」

①集合開催（予定）

日 時：令和6年11月26日（火）18:30～20:00（90分）

会 場：海老名市文化会館小ホール（定員 335 名）

目 的：○これまでに開催した市民向け対話の場及び職員向け対話の場等の報告
○海老名市が考えるフルインクルーシブ教育の進め方についての共有

②オンライン開催（予定）

日 時：令和6年12月7日（土）13:00～17:00

会 場：メタバースを活用した仮想空間（同時参加可能人数 100 名を想定）

目 的：○集合開催での参加が難しかった方の参加機会を設ける
○これまでに開催した市民向け対話の場及び職員向け対話の場等の報告
○海老名市が考えるフルインクルーシブ教育の進め方についての共有

こどもとの「対話の場」

- ・2月に抽出校、抽出学級にて実施予定
- ・指導主事がこどもたちに説明しながら話を聞き、一緒に考えていく。教職員にも見ていただき、校内に広めていく。

＜令和6年度 年間スケジュール＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
推進会議		第1回			第2回						第3回	
対話の場	市民向け 市民向け 市民向け（メタバース） 各種団体 教職員 → こども											

調査研究部会における検討課題について

1. 当面の検討項目について

- ・ これまでの部会では、主に 35 人学級を前提として教室環境の改善について、検討を重ねていた。
- ・ 次回以降、以下の 3 点について、構成員で調査研究を進めていく方向で検討を進める。
- ・ 併せて、取組の方向性を提示できるよう、ロードマップ等の作成を検討する。

① 学校環境の整備等について

② 教育支援コーディネーター（教育相談コーディネーター）を中心とした校内支援体制について

③ 海老名市における就学のあり方について

外部評価について

1. 目的

海老名市教育委員会及び神奈川県教育員会で結んだ「インクルーシブ教育 の更なる推進に向けた連携と協力に関する協定書」の内容に沿って、年度ごとに取組状況等について客観的な視点からご意見をいただき、今後の取組へ活かす。

2. 実施時期

年度の最終推進会議終了後に実施して、その内容を次年度最初の推進会議で報告する。

3. 意見集約の方法

個別ヒアリング

4. 評価者候補（3名程度を想定）

1	有識者	
2	学校関係者	
3	海老名市 関係者	

* 評価者の選定については、議長に一任いただく。

* 単年度での依頼とする。

5. 下半期のスケジュール

- 令和6年8月 方向性の決定<本日>
- 令和6年9月～令和7年1月 評価項目の検討、評価者の決定
- 令和7年2月 第3回推進会議
- 令和7年2～3月 個別ヒアリング実施

※令和7年度1回目推進会議（5月予定）にて令和6年度評価を報告想定